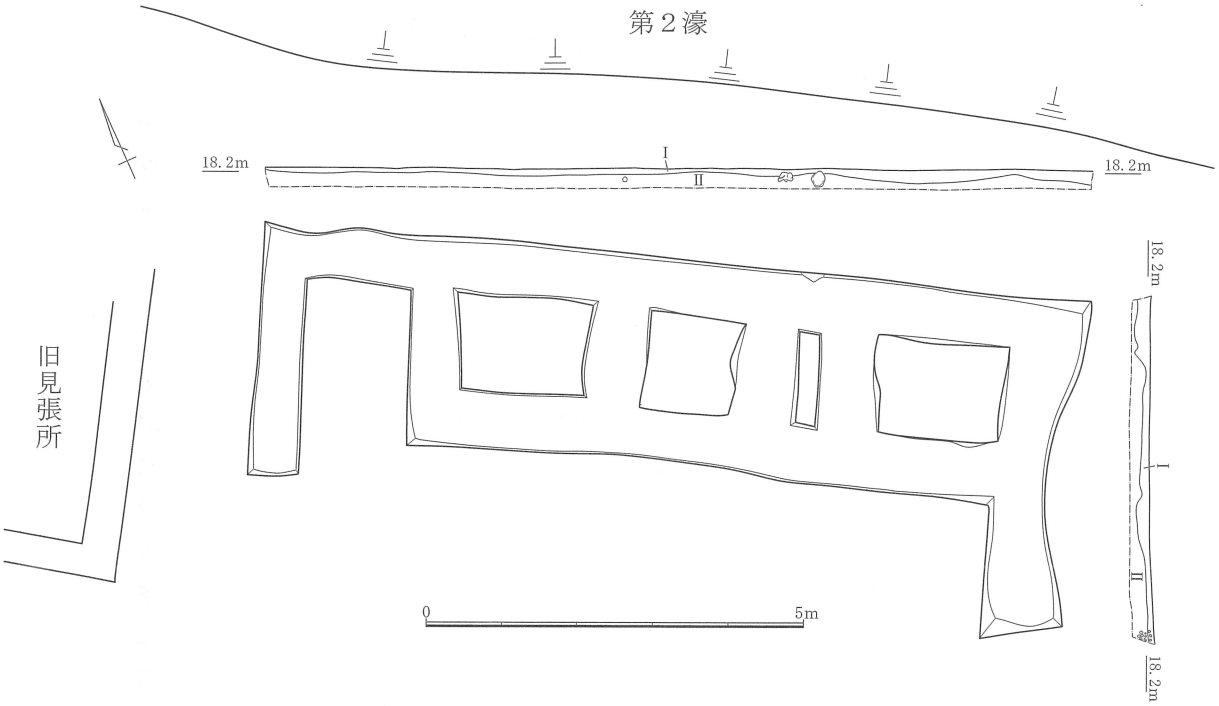
百舌鳥部事務所建替工事箇所の立会調査

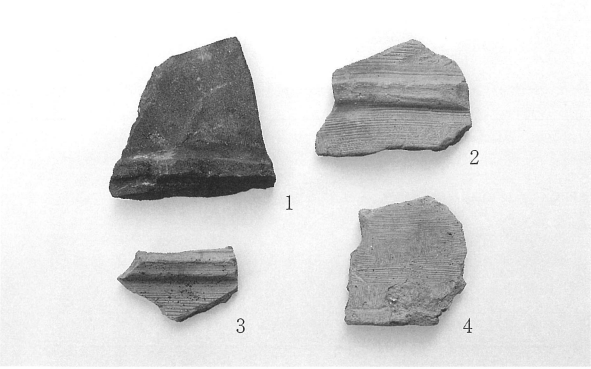
古市陵墓監区事務所百舌鳥部事務所は仁徳天皇百舌鳥耳原中陵の陵前に所在しており、第２濠と第３濠の間にある第２堤上に位置する。現在の見張所が老朽化したことから建替工事を計画した。そのため建設が予定される場所における遺構・遺物の確認を目的として、予定地の事前調査を平成23年度に実施した。その結果については本誌前号に掲載したところであるが、概要は次の通りである。調査箇所の土層は表土が30ｃｍほどの厚さで確認され、その下には1.4ｍほどの厚さで黄褐色の粘質土がブロック状に積まれた土層が観察された。この土層は堆積状況を勘案すると、一気に積まれたものであると判断した。そしてこの土層の中には、摩耗した埴輪の小片がわずかに含まれることから、この盛土は古墳時代に遡るものではないと判断した。その下に地山が確認され、埴輪列・葺石など原初に遡る遺構は検出されなかった。

この結果を受けて予定地における建て替えが可能と判断したことから工事を施工することとし、平成24年11月から平成25年３月にかけて、掘削を伴う工事の際に立会調査を実施した。掘削は基礎工事箇所のみを溝状に掘削し、その総延長は約53ｍ、幅1.5ｍ、深さは0.6ｍである。そのうち北側22ｍ部分と、東側の９ｍ部分について土層断面図を作成した（第74図）。掘削箇所の土層を観察したところ、事前調査時の所見と同じく、地表下0.3ｍほどは表土（Ⅰ）であり、その下に黄褐色の粘質土を主とする盛土層（Ⅱ）が確認された。今回の掘削では地山は確認されず、掘削深度はこの盛土の中で収まっている。この盛土層の中から、後述するように摩耗した埴輪片と共に近世の瓦質の井戸枠材が出土しており、盛土の時期は原初に遡るものではないことを再確認する結果であった。その他工事箇所においても掘削時に立ち会ったが、遺構・遺物は検出されなかった。同様に地盤を強化するためにおこなった柱状土壌改良においても、遺構・遺物は検出されなかった。以上の結果から、工事は予定通り施工した。（徳田誠志）

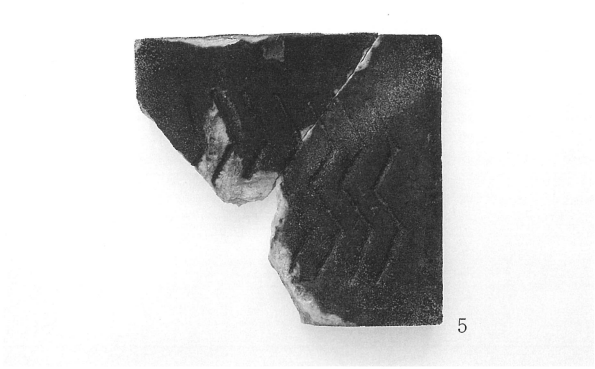
今回の立会調査で出土した遺物の総数は26点で、瓦質の井戸枠材（５）以外は埴輪片であった。主な資料については写真図版44に掲載したので参照願いたい。埴輪（１～４）はいずれも細片であり、これまでの当陵出土品の傾向と異なるものではない。瓦質の井戸枠材（５）は近世段階のものであろう。近隣に井戸が存在していたとすれば、土地利用の変遷を考える上で興味ぶかい。（加藤一郎）



第74図　百舌鳥部事務所建替工事に伴う掘削箇所平面図及び断面図（1/100）

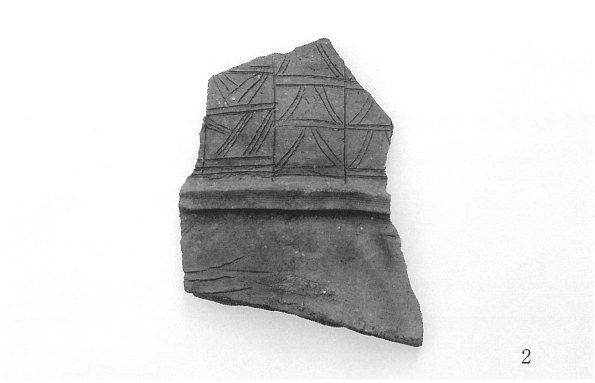


1　百舌鳥部事務所建替工事　埴輪



2　百舌鳥部事務所建替工事　瓦質の井戸枠

3　百舌鳥耳原中陵　埴輪



4　百舌鳥耳原中陵　埴輪

5　百舌鳥耳原中陵　埴輪